**ハンドマイク街頭演説原稿例　　コロナ対策、森辞任・五輪中止**

　　二〇二一年二月一六日　日本共産党埼玉県委員会・作成

　ご近所のみなさん、日本共産党です。本日はこの場所をお借りして、日本共産党の政策を訴えさせていただきます。しばらくの間ご協力をお願いいたします。

　みなさん、新型コロナの新規感染者数は減少傾向にあるものの、新医療機関や高齢者施設での集団感染がいまもなお発生し、医療機関のひっ迫は依然として深刻です。症状急変による自宅療養者の死亡が増えていることも極めて重大です。このような中、埼玉県は県内のすべての医療機関や高齢者施設の職員らに集中的なＰＣＲ検査を実施することを決めました。さらに、障害者施設の職員らへの検査も追加しています。一月末に、日本共産党埼玉県委員会は同様の検査拡充を大野知事に申し入れており、今回の決定を高く評価するものです。県内では、高校など学校現場でのクラスタ―も広がっています。日本共産党は、学校クラスタ―を防ぐために、陽性者１人が判明した段階で、全校生徒・職員へのＰＣＲ検査を実施するなど検査拡充を引き続き強く求めていきます。

　みなさん、非常事態宣言のなか、非正規労働者の生活困窮が広がり、飲食店をはじめ、多くが事業者が存続の危機に立たされています。それにもかかわらず、菅首相は、国会質疑で野党が一致して求める、持続化給付金や定額給付金の二回目の給付を頑なに拒否しています。さらに、日本共産党の小池晃参院議員が「１日６万円の協力金ではなく、事業規模に応じた支援を」と繰り返し求めましたが、最後まで応じませんでした。一方、大企業で働くパート労働者らが休業支援金を受け取れなかった問題では、日本共産党など野党の国会追及によって、昨年４月から遡って申請できるようになりました。野党と国民が力を合わせれば政治は大きく変えられます。今年の総選挙では、国民の命とくらしを守るために、野党による政権交代を実現していきましょう。野党勝利と日本共産党の躍進へ、大きなご支援をよろしくお願いします。

　みなさん、女性蔑視発言への厳しい批判をうけ、東京五輪・パラリンピック組織委員会の森喜朗会長が辞任しました。今回の問題を通して日本社会の女性差別の構造的なゆがみみがあぶりだされました。多くの方が沈黙せず抗議の声をあげたことは日本社会の大きな希望です。今後も力合わせて女性差別の構造的な歪みを正す取り組みを進めていきます。

さて、この夏の東京五輪ですが、いま、あらためて考えるべきは、深刻なコロナ禍のなか予定通り開催すべきかどうかです。日本共産党は、以下の理由から、東京五輪は中止し、コロナ対策に集中すべきと考えます。まず、第一にワクチン接種が間に合わず、各国選手や国民の安全が保障できないこと、第二に、各国の感染状況に差があり、アスリートの願うフェアな開催が困難なこと、第三に、大会中に１万人もの医療者を確保することは現実的でないことからです。日本共産党は、政府がゼロベースから開催の可否を再検討し、関係機関と協議を開始することを強く求めていきます。

最後に、「桜を見る会」問題など、スクープ連発の「しんぶん赤旗」が、いまメディアでも広く注目されています。この機会に「しんぶん赤旗」をぜひご購読いただきますようお願いしまして、この場所をお借りしてのうったえを終わります。ご協力ありがとうございました。（了）